

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 一宮市チューリップ教室

公表日 2026年 3月 16日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		スペースを最大限活用できるよう、備品は物置に常に見まわす等、対応をしている。	全員出席の日は、狭く感じる時があるため、ケガや事故にならないよう注意している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		安全にお子さんの支援ができるよう、日々確認しながら配置している。	今後も継続する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		わかりやすいように、絵カードやタイムタイマーなど、見本を見せて支援している。	今後も継続する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		部屋の柱の角にクッション材を貼るなど、事故防止に努めている。	近年の猛暑の影響で、トイレがかなりの高温となるため、衣類の着脱などのトレーニングの場になるトイレについて、エアコンの設置を検討したい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		個室がないため、部屋の隅や玄関横のスペースに誘導し、クールダウンしていただいている。	玄関横のスペースにカーテン等で仕切りを作り、落ち着けるスペースを確保するよう検討したい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		毎月職員会議を行い、業務改善の意見を求めている。	今後も継続する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎年の評価から改善や課題を見つけ、検討している。	今後も継続する。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		評価だけでなく、気づいたときにその都度伝えていただくようお願いしている。	今後も継続する。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		監査を受けて業務の改善に繋げている。	現在、外部評価は行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		なるべく行きたい研修に参加できるようにしたり、全員が研修を公平に受けられるように体制を整えている。職員会議時に内部研修も行っている。	今後も継続する。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		ホームページで公表している。	今後も継続する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		普段から保護者の意見を丁寧に聞き取り、計画に反映している。	今後も継続する。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		職員全員の意見を聞き、計画作成に反映している。	今後も継続する。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		個別支援会議を行い、職員間で共有し、連携を取りながら支援を行っている。	今後も継続する。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		遠城寺式発達検査や新版K式発達検査を用いている。	今後も継続する。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		お子さんの発達や保護者の意向に合わせた項目を設定している。	今後も継続する。

の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	職員間で意見を出し合っている。	今後も継続する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	月案や週案をたてて、全員で考えている。	今後も継続する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	お子さんの発達に応じて個別課題を行っている。一斉の活動も個々の発達を考えながら行っている。	今後も継続する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	毎朝打ち合わせを行い、流れや役割を確認している。	今後も継続する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	毎日その日の振り返りをし、ヒヤリハットや気づいた点も全員で共有している。	今後も継続する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	常に記録を取って情報共有し、支援の改善に努めている。	今後も継続する。
	23	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	3か月ごとに見直している。	今後も継続する。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	会議には担当者と児発管が参加している。	今後も継続する。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	研修等に参加をして関係づくりをし、連携して支援を行えるようにしている。	今後も継続する。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	事業所、就園前後の保育園、幼稚園、いずみ学園と連携を取り、移行に向けた支援や情報共有を行っている。	今後も継続する。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	ほとんど2、3歳児のため小学校等と連絡を取ることはないが、就学前のお子さんがいらっしゃれば連絡を取るなど調整します。	今後も継続する。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	地域の児童発達支援センターと連携し、療育の相談や助言をもらっている。	今後も継続する。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	半数以上が保育園や幼稚園と併用で通園しているが、通園していない方には、地域の保育園の園庭開放や、併設施設で行われる、移動子育て支援センターの参加を勧めている。	近隣の児童発達支援センターで、親子交流の場に参加させてもらうなど検討したい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	保護者の意見を丁寧に聞き取り、お子さんの発達を保護者と共有している。	今後も継続する。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	保護者にペアレントプログラムへの参加を勧めている。またプログラムの内容の一部を園だよりに掲載している。園内で行う保護者向けの講演や市の講演なども案内をしている。	今後も継続する。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	体験やアセスメント、利用開始時など、対面で説明している。	今後も継続する。	

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	懇談で保護者の思いを聞き、療育の中で、子どもの好きなことを増やせるように作成している。	今後も継続する。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	計画を示しながら説明し、同意を得ている。	今後も継続する。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	親子通園施設であるため、常に相談に対応している。	今後も継続する。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	親子通園施設のため、保護者同士の交流はある。	親子通園施設であるが、働く父母が増え、現在父母の会はない。祖父母等も含め保護者の交流は職員の配置を考えながら、増やすように検討する。また、きょうだい同士の交流も、安全に支援できる職員配置を考え、取り組めるよう検討する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	その都度対応している。	今後も継続する。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	チュールリップたよりを毎月発行している。	今後も継続する。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	個人情報の漏えいや守秘義務については、雇用時に説明し、全職員留意している。	今後も継続する。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	個々にあった手段（ジェスチャー、絵カード）を使用している。保護者については会話を重視し、意思疎通を図っている。	今後も継続する。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	併設の高齢者施設へ、避難訓練の参加を呼びかけている。	同法人の障害者施設のイベント時に、施設の様子など紹介できるコーナーを設けるよう検討したい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	定期的に訓練を行い、改善点を話し合い、次に生かせるようにしている。	今後も継続する。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	BCPを策定し、職員全員で訓練を行っている。	今後も継続する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	アセスメントで確認している。	今後も継続する。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	保護者が持参した弁当で対応している。	今後も継続する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	定期的に訓練を行いながら、職員間で安全に支援できるように連携している。	今後も継続する。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	安全に支援できるよう、計画内容に基づき、具体的な取り組みを説明している。	今後も継続する。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	毎日振り返りの時間に話し合い、再発防止を検討している。	今後も継続する。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	園外、園内研修をしている。園外研修については、伝達研修を行っている。	今後も継続する。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	契約時に説明し、同意を得ている。	今後も継続する。	